

梅垣さん夫妻が いわて農林水産表彰に

和野山地区で農業を営む旭日区あさひの梅垣博継ひろつぐさん(42)、かおりさん(35)夫妻は、このほどいわて農林水産振興協議会長(会長・増田寛也岩手県知事)からいわて農林水産表彰「意欲ある担い手賞」を受賞しました。

農業に興味があつた梅垣さん夫妻は平成12年4月東京都から普代村に移住。和野山農地開発地区に雨よけハウレンソウ栽培のためパイハウス5棟を建設。その後毎年ハウスを増やし、現在は44棟、42坪のハウレンソウ栽培を夫婦で営んでいます。

農業の知識がほとんどなかった梅垣さん夫妻ですが、就労した1年後の平成13年からわずか5年間で久慈地域のトップクラスの生産者に成長しました。

栽培には先進技術も導入し、新規就農者や企業などの視察も受け入れ、久慈地域の農業振興に貢献した功績で表彰されました。

表彰式は11月16日、盛岡市民文化ホールで開かれた平成18年度いわて農林水産躍進大会の席上で行われました。

表彰状を手に受賞を喜ぶ梅垣さん夫妻

博継さんは「土作りや栽培方法など、かなり苦労しましたが、どこにかここまでやってこれました。家族のためにも今まで以上に頑張ります」と話していました。

12会場で意見交換

村政懇談会に129人



10月の低気圧災害で被害を受けた漁港の復旧などについて要望が出された黒崎地区会場



林道の整備などの要望が出された鳥居地区会場



行財政改革の推進状況を聞く堀内地区の皆さん

平成17年度の村政懇談会が11月15日の黒崎地区を皮切りに12月7日までの延べ6日間、村内の12会場で開催されました。

12会場で129人が参加した同懇談会には、村から深渡宏村長、桎屋伸夫助役、熊坂伸子教育長、太田敏光総務課長ら11人が各地区に出向いて行われました。

開会で深渡宏村長は「村民の皆さんと共に『地域資源を生かした、自立する村づくり』をさらに進めるた

め、ご意見、ご提言をお願いします」とあいさつ。続いて太田総務課長が本年度の行財政改革の推進状況を説明しました。

参加した皆さんからは▽防災無線の故障が多いので、点検し素早く対処してほしい(黒崎・太田名部)▽10月の低気圧災害に資金援助してほしい(黒崎・沢)▽太田名部の新港の整備と荷さばき所の整備を(太田名部)▽事業をやっている中で借金が膨らんでいるの

か。事業の効果を検証してやるかやらないか検討してもらいのではないか(普代会場)▽船を安心して係船しておけるよう漁港整備をお願いしたい(白井)▽最終統合校は自然環境、防災面などから堀内小がベストではないか(白井)▽30億円の借金はびっくりした。夕張市のようになることはないでしょうね(堀内)——など村の将来を考えた真剣な意見交換が行われました。